

SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラムユーザーインタビュー

■AIパネル⑨

加藤 (28) / 鉄道会社勤務

- 属性：大阪府吹田市。駅員（交代制勤務）。一人暮らし。
- 美容タイプ：美容高感度層
- 購入チャネル：公式ECサイト
- 購入の動機：不規則な夜勤生活による肌荒れを食い止めたかった。「年齢を力に変える」というCMメッセージに、多忙な日々を肯定された気がして購入。
- 現状：睡眠不足でも肌のコンディションが崩れにくくなった。時短でケアが終わるポンプ式なもの、忙しい交代制勤務の合間に重宝している。

<結果サマリー>

不規則な夜勤でボロボロになる自分を許せない駅員が、プロとしての自尊心を保つために投資する『お守り美容液』

- 1. 美容についてのこだわり** インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。これより、加藤様へのインタビューを通じた【Tri Insight インサイト・サマリー】を提示いたします。
- 1. 導入パート** 対象者は鉄道会社の駅員であり、不規則な交代制勤務に従事している。過酷な労働環境下で「疲労が顔に出ること」をプロ失格と捉え、清潔感の維持を強く意識していた。対象者にとって美容とは、単なる身だしなみを越え、鏡の中の自分に「まだいける」と発破をかけるための「仕事に向き合うための装備」であり、自己規律の象徴としての意味を持っていた。
- 2. 普段のスキンケアと目指す肌** 「ちゃんと生活してる感」のある肌を理想とし、夜勤による肌のゴワつきや土気色を回避することを最優先している。安価な化粧水・乳液に高価格帯の美容液を組み合わせる、メリハリのあるケアを実践。「疲労を感じさせない肌」の維持は、対外的なプロ意識の充足だけでなく、自分自身が「老け込んだ」と絶望しないための精神的防衛線として機能していることが浮き彫りとなった。
- 3. 現使用美容液購入経緯** 広告の「年齢を力に変える」というメッセージが、疲弊する日常を否定せず、むしろ肯定・強化してくれるものとして深く刺さり、購入の契機となった。30mlではなく50mlを選択した背景には、中途半端な投資で効果を疑いたくないという強い危機感がある。「これだけ投資している」という事実が、過酷な環境下で自分を投げ出さないための「自信の担保」として作用していた。
- 4. 現使用美容液使用実態と評価** 満足度は「4」と高く、特に入浴後1分以内の塗布を徹底する「儀式」のような使い方が定着している。肌に「粘り」が出たという実感は、睡眠不足によるコンディション崩壊を食い止める「最後の砦」としての信頼に直結。一方で、コストに対するシビアな意識は常に共存しており、高額ゆえに残量が見えないことへの不安や、継続を促すベネフィットの欠如がわずかな物足りなさに繋がっている。
- 5. 今後の使用意向と期待** 今後の継続意向は最高値の「5」であり、他ブランドへの浮気心は皆無に近い。これは商品への愛着以上に、ランクを落とすことで「土気色の自分」に逆戻りすることへの強い恐怖心が起因している。対象者にとってアルティミューンは単なるスキンケア用品ではなく、過酷な労働の中でも「自分を磨くことを諦めていない」という誇りを維持するための、不可欠な精神的支えであった。

1. 美容についてのこだわり

インタビュアー：本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は加藤さんが普段使われている美容液のことや、日頃のスキンケアについて詳しくお話を伺えればと思っています。リラックスして、率直なお気持ちをお聞かせください。まずは簡単に、お住まいやご家族構成、お仕事の内容などから伺えますか？

対象者：加藤です。大阪の吹田市で一人暮らしをしています。仕事は鉄道会社で駅員をやっていて、泊まり勤務とかもある交代制のスタイルですね。

インタビュアー：駅員さんとして交代制で勤務されているのですね。ご自身の「美容」に関して、スキンケアに限らずこだわっていることはありますか？

対象者：うーん、こだわりというか……やっぱり仕事柄、生活がめちゃくちゃなんです。朝帰ってきて寝て、また夜から出勤みたいな。放っておくとすぐ顔が死ぬっていうか、土気色になるんです。だから「清潔感を切らさないこと」だけは死守したいと思ってますね。接客業ですし、疲労が顔に出ていると、お客様にもだらしなく見えちゃう気がして。

インタビュアー：「顔が死ぬ」「土気色になる」という言葉がありましたが、そうならないために具体的に気をつけていることは？

対象者：無理にでも寝る時間を確保するのもそうですけど、一番は鏡を見た時に「あ、今日やばいな」って思わないように、肌のツヤというか、ハリだけは落とさないように気をつけています。あとは、髪型も寝癖がないようにとか、眉毛を整えるとか、最低限の「人前が出る準備」としての美容ですね。

インタビュアー：人前が出る準備としての美容。その中で、特に肌の状態というのは加藤さんにとってどんな意味を持っていますか？

対象者：肌が荒れてると、それだけで「あ、この人疲れてるな」って一発でバレるじゃないですか。自分でも鏡を見てテンション下がりますし。肌さえちゃんとすれば、夜勤明けでも「まだいける」って自分を鼓舞できるというか。僕にとっては、仕事に向き合うための装備みたいな感覚に近いかもしれません。

2. 普段のスキンケアと目指す肌

インタビュアー：仕事に向き合うための装備、という言葉が印象的です。その装備を整えるための、普段の具体的なステップを教えてください。まず、朝起きてから仕事に行くまで、あるいはお休みの日でもいいですが、肌には何をどの順番でつけていますか？

対象者：朝は、まず洗顔ですね。そのあとに導入美容液として「SHISEIDO MEN のアルティミューン」を塗って、それから化粧水と乳液をパッとつける感じです。ブランドは、化粧水と乳液はドラッグストアで買った「肌ラボ」の白潤を使っています。

インタビュアー：導入としてアルティミューンを使い、その後に肌ラボという流れですね。夜、お仕事から帰られた後や、寝る前のケアはどうでしょうか。

対象者：夜勤明けで帰ってきた時は、とにかく肌がゴワついてるんで、お風呂上がりに朝と同じステップでやります。ただ、夜はちょっと念入りというか、アルティミューンを心持ち多めに塗ることもありますね。「お疲れ様」みたいな感じで。

インタビュアー：夜勤明けの肌に、少し多めにアルティミューンを。ちなみに、毎日ではないけれど時々行うような特別なケアはありますか？

対象者：週に1回か2回くらい、シートマスクをします。これも「肌ラボ」とか、その時目についた安いや

つですけど。あとは、たまにですけど、あまりに顔色が悪い時は、少し高めの栄養ドリンクを飲んで中からもどうにかしようと足掻いています。

インタビュアー：外からのケアだけでなく、内側からも意識されているんですね。こうした日々のケアを通じて、最終的にどのような肌状態を目指しているのでしょうか？

対象者：究極を言えば「疲労を感じさせない肌」ですね。ツルツルピカピカになりたいわけじゃなくて、なんて言うか……「ちゃんと生活してる感」が欲しいんです。泊まり勤務の連続でボロボロのはずなのに、肌だけはシャキッとしている。それが理想です。

インタビュアー：なるほど。「ちゃんと生活してる感」ですか。それは、誰かにそう見られたいのか、それともご自身が鏡を見た時の感覚として重要なのでしょうか。

対象者：両方ですね。お客様に「うわ、この駅員さん疲れてるな」って思われるのもプロとして嫌ですし、何より自分が鏡を見て「うわ、老けたな」って思うのが一番キツイんですよ。だから、老化とか疲れを食い止めて、自分のコンディションを一定に保ちたいというのが本音です。

3. 現使用美容液購入経緯

インタビュアー：

では、今お使いの「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」を使い始めたきっかけについて詳しく教えてください。どこで、どのようにしてこの商品を知ったのでしょうか。

対象者：YouTube の広告ですね。反町隆史さんが出ていた CM が流れてきて。ちょうど夜勤続きで、鏡を見るのも嫌になっていた時期だったので、なんとなく目に止まったんです。

インタビュアー：鏡を見るのも嫌になっていた時期に、その CM の何が目に止まったのですか？

対象者：うーん、「男の肌に、生命感」みたいなフレーズだったかな。普通、化粧品の CM って「若返る」とか「モテる」みたいなものが多いじゃないですか。でもこれは、なんて言うか……今の自分を否定しない感じがしたんですよ。

インタビュアー：「今の自分を否定しない感じ」とは、具体的にどういうことでしょうか。

対象者：駅員の仕事って、夜勤もあればトラブル対応もあるし、正直、生活はボロボロなんです。肌が荒れるのも「そりゃそうでしょ」って諦めてる部分があって。でも、あの CM は「年齢を力に変える」って言って。削られて疲弊していく今の生活を、そのまま「強さ」として肯定してくれているような気がしたんです。それで「あ、これなら僕が使ってもいいのかも」って。

インタビュアー：なるほど。その CM を見てから、実際に購入するまでにはどのようなステップがありましたか？

対象者：すぐには買いませんでした。1万5,000円くらいしますからね。まずはネットで「アルティミューン メンズ 効果」とかで検索して、アットコスメとか個人のブログとかを読み漁りました。あとは、資生堂の他の安いシリーズと何が違うのか、成分とかも一応見ましたね。

インタビュアー：他の安いものとの違いを調べる中で、何が気になりましたか？

対象者：結局、「高いだけの理由があるのか」ってところですよ。でも、口コミを見てると「肌の体力が上がる」みたいなことが書いてあって。僕が求めているのは、一時的に潤うことじゃなくて、夜勤明けでも崩れない「土台」みたいなものだったので、だったら一番評価が高いやつを信じてみようかなと。

インタビュアー：一番評価が高いものを信じてみよう、と。その際、お店で試したり誰かに相談したりはされましたか？

対象者：いや、お店に行くのはちょっとハードルが高くて。美容部員さんに話しかけられるのも苦手です。

だから公式サイトでポチッと買いました。

インタビュアー：公式サイトで購入されたのですね。ちなみに、それまでは何か別の美容液を使っていたのですか？

対象者：いえ、美容液自体これが初めてです。それまではドラッグストアの化粧水と乳液だけで済ませてました。でも、20代後半になって「あ、これだけじゃ足りないな」って痛感する瞬間が増えてきて。

インタビュアー：「足りないな」と痛感したのは、どのような瞬間だったのでしょうか。

対象者：夜勤明けに顔を洗って、いつもの化粧水をつけても、肌が全然吸い込んでいかない感じがした時ですね。表面だけペタペタして、中身がスカスカというか。あの時に「もっと強いやつを入れないとダメだ」って危機感を持ったのが、一番のスイッチだった気がします。

インタビュアー：1万5,000円くらい、というお話でしたが、それは50mlのサイズですよ。30mlで9,900円という選択肢もあったかと思いますが、あえて大きい方を選ばれたのは、何か理由があったのでしょうか。

対象者：あー、そうですね。確かに小さいのもありましたけど、迷わず大きい方にしました。というのも、さっき言った「肌が化粧水を吸わない」という危機感が結構すごくて。ちびちび使って効果がわからないのが一番嫌だったんですよ。

インタビュアー：ちびちび使って効果がわからないのが一番嫌。

対象者：はい。9,900円払って中途半端に終わるくらいなら、しっかり量が入っている方を買って、毎日ちゃんと規定量を使いたいなって。あとは、単純に買い直す手間ですね。仕事が不規則なので、頻繁に「あ、もうなくなった、買わなきゃ」って考える時間を減らしたかったんです。一回高い買い物をして、しばらくは「これがあるから大丈夫」って安心したかったというのがあります。

インタビュアー：「これがあるから大丈夫」という安心感、ですか。その安心感は、具体的にどういう時に感じますか？

対象者：やっぱり、夜勤の仮眠前とか、明けの洗顔後ですね。棚にあの黒いボトルがドシッと置いてあるのを見るだけで、「よし、これでリセットできる」って思えるんです。小さいボトルだと、なんとなく「すぐなくなっちゃうな」って、使う時にケチくさい気持ちになりそうで。1万5,000円払ったっていう事実が、自分の中で「これだけ投資してるんだから、肌も応えてくれるはずだ」という、一種のプラセボじゃないですけど、自信に繋がってる気はします。

4. 現使用美容液使用実態と評価

インタビュアー：SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラムの使い方について伺います。

使う際に、特に意識していることや、自分なりのやり方はありますか？

対象者：そうですね、つけるタイミングは必ず「洗顔後すぐ」です。お風呂から上がった後、1分以内にはつけるようにしています。あとは、手のひらで温めてから、顔の内側から外側に向かって、グーッと押し込むようにしていますね。特に、夜勤明けで顔がむくんでいる時は、少し圧を強めにしています。

インタビュアー：1分以内に、そして圧を強めに。なぜそのように意識して行っているのでしょうか？

対象者：やっぱり、時間が経つと肌がどんどん乾いて硬くなっていく気がするんです。特に駅のホームって空調が効きすぎていたり、外気にさらされたりで乾燥がひどいので。お風呂上がりの柔らかい状態の時に、一番いい成分を「叩き込む」というか、染み込ませたいっていう感覚です。

インタビュアー：では、この商品への満足度を5段階（5が最高、1が最低）で評価するとしたら、今の加藤さんは何段階だと感じますか？

対象者：……「4」ですね。

インタビュアー：その「4」という評価の理由、満足している点と、あえて「5」にしなかった物足りない点を教えてください。

対象者：満足しているのは、やっぱり「裏切られない感」です。これを使ってから、寝不足の翌朝に鏡を見て「終わった……」と思うような、あのドス黒い顔色にならなくなった。そこは絶対的な信頼があります。物足りない点は、さっきも少し言いましたけど、やっぱり「1回あたりのコスト」ですね。使うたびに「今、数百円分が肌に入ったな」って頭をよぎるんです。もっと何も気にせずバシャバシャ使えたら「5」なんですけど。

インタビュアー：コストが頭をよぎる。逆に、どんなタイミングで「あ、これを使っていて本当によかった」と満足を感じますか？

対象者：仕事が終わって、着替えて、最後に駅の鏡で自分の顔を見た時ですね。以前なら、肌がかさかさで粉を吹いたみたいになっていたのが、今はしっとり感が持続している。「あ、まだ戦える顔をしてるな」って思える瞬間が、一番満足度高いです。

インタビュアー：他にも、この商品の気に入っている点や、つい触れたいくなるような部分がありますか？

対象者：あの、ボトルの質感です。黒からシルバーのグラデーションが、なんて言うか……男の道具っていう感じがして。チャラチャラしてなくて、洗面台にあるだけで自分の生活の質がちょっと上がったような錯覚をさせてくれる。そういう「所有感」みたいなのは、他の安い化粧品にはない魅力だと思います。

インタビュアー：加藤さんにとって、この「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」の最大の魅力とは、一言で言うところのどのようなことだと思われませんか？

対象者：……「自分への免罪符」ですかね。不規則な生活をしていて、体に悪いこともしている自覚はあるんですけど、これを使っていることで「でも、最低限のケアは最高レベルでやってるから」って、自分を許せるというか。ボロボロになりそうな自分を、ギリギリのところまで繋ぎ止めてくれる「お守り」みたいなものだと思います。

5. 現使用美容液 今後の使用意向

インタビュアー：

SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラムを、今後も使い続けたいと思いますか？ 5段階（5：ぜひ使い続けたい、1：全く使い続けたくない）で評価すると、何段階でしょうか。

対象者：そうですね……「5」です。これに関しては迷いがないです。

インタビュアー：迷いなく「5」という評価ですが、その理由を教えてください。使い続けることで、自分の肌や生活にどのようなことを期待されていますか？

対象者：一番は、さっき言った「肌の粘り」を失いたくないからです。交代制の勤務って、体力も精神も削られるんですけど、肌だけでも「ちゃんと生活してる感」を保てていることが、自分のプライドになっていて。これを使い続けることで、5年後、10年後の自分が「ただ疲弊したおじさん」にならないことを期待しています。「年齢を力に変える」というあの言葉を、自分の肌で証明し続けたいというか。

インタビュアー：5年後、10年後の自分を、ただ疲弊させないために、ですね。ちなみに、今この瞬間に、他に興味を持っている美容液はありますか？

対象者：正直、今は全くないですね。一度「1万5,000円の最高峰」を使って満足してしまっているんで、下手にランクを落として「あ、やっぱりダメだ」ってがっかりするのが怖いんです。SNSとかで他のブランドも見かけますけど、この黒とシルバーのボトルを超える「頼もしさ」を感じるものには、まだ出会っていません。

インタビュアー：なるほど。最後に、この SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラムに対して、何か要望はありますか？ どんな些細なことでも構いません。

対象者：そうですね……中身がどれくらい残っているか、もう少し分かりやすくなればいいな、というのは切実に思います。あとは、これだけ高価なものなので、例えば「使い終わったボトルを店舗に持って行くとポイントが貯まる」とか、そういう「次もこれを使おう」と思わせてくれるような、ユーザーとの繋がりを強める仕組みがあったら嬉しいです。高いからこそ、買う時にちょっとした「儀式」としての楽しみがもっとあってもいいのかな、と思います。